

# 奨学生(第1期生)からのメッセージ

## 【日本大学商学部 Kさん】

私が記者という仕事を志したのは、自分の興味関心を活かして、社会に貢献したいと考えたからです。貴財団による給付型奨学金という学生支援的、社会貢献的側面の強い奨学金の受給を通じて、私自身も学生や若者、更には社会に貢献できる人間になりたいと志すようになりました。企業経営を通じて得た経験や財力を活かして、学生の未来を切り開く手伝いをしているこの財団のように、自分の強みを活かして誰かの役に立ちたいと思いました。

私は記者として、貴財団のように企業活動による成果を活用して、積極的に社会貢献活動に取り組んでいる企業や、今はまだ認知度が低い、社会問題の解決そのものを活動の主眼とし、ビジネスによってそれらを改善・解決しようとするソーシャルビジネスの活動を社会に広く周知することで、社会問題の改善・解決の一助になりたいと考えています。今後、サカタ財団から受けた恩を社会全体に還元するためにも、誠実に仕事に邁進していきたいと思っています。



## 【千葉大学園芸学部 Fさん】

私は、農業から人々の健康を支えたいと思い、農学部に進学しました。本財団の奨学金を志願したきっかけは、本奨学金があれば学業に必要なパソコンや道具を買うことができる、資格試験の受験料、参考書費用に利用できる、アルバイト以外の時間に余裕ができると考えたためです。

結果としてTOEICを迷いなく複数回受けることが可能となり、840点を獲得しました。本奨学金がなければ、複数回受けることも、試験に向けて努力しようとも思いませんでした。

また、学部2年次には、本奨学金を利用してフィリピンの農村部でボランティア活動を行いました。現地では、1日に1食朝ごはんしか食べることができない家庭が多く、小学校に通うことができる子供も30%程度であることに驚愕しました。就学率が低い理由は、ご飯を買うためのお金を稼ぐために子供を働かせているためでした。

この経験から、農業が困難とされる地域でも、より安定的な作物収量の生産に貢献したいと考えようになりました。来年度からは大学院に進学し、開発途上国での効率的なイネ生産について研究をします。将来は自分の得た知識を用いて世界に栄養と笑顔を供給できる人材になりたいと考えています。本奨学金は、自身のスキルアップや人生の選択肢を増やすために有効と考えます。貴重な機会をいただきありがとうございました。



## 【千葉大学園芸学部 Fさん】

奨学生になる前は大学の必修授業とアルバイトに日々の大半の時間を費やしていました。そのため授業以外で興味のあったことに取り組みせずにいました。しかし奨学生となったことで、時間的にも金銭的にも余裕が生じ専門分野だけでなく幅広い興味に対して手を伸ばせるようになりました。また勉強道具や健康管理に対しても投資できるようになり、学校生活を送る環境も改善することができました。

更には奨学金をいただく中で「将来を担う社会に有為な人材」になるためにはどうしたらよいか考えるようになりました。そういった奨学金をいただける目的を意識することで勉学や就職活動にも身が入りました。春からは農業界で働かせていただくことが決まっており、私も未来にタネをまけるような人間になれるよう今後も頑張っていきたいです。



### 【千葉大学園芸学部 Nさん】

サカタ財団の奨学生に選んでいただけたことで、より充実した学生生活を送ることができたと実感しています。私は、生活費を捻出するために学業や課題活動と両立してアルバイトに勤しんでいました。しかし、大学までの片道2時間かけて通っていたこともあり、自分の自由な時間を確保することができず、忙しい日々を送っていました。しかし、奨学生になったことで金銭面の不安がなくなり、時間にも余裕が生まれ、自分がやりたいことに集中して取り組む環境を手に入れることができました。奨学生の皆さんにも、自分がやりたいこと・成し遂げたいことを積極的に取り組み、豊かな学生生活を送ってほしいです。もし、サカタ財団の奨学生に応募するかどうかが迷っている方がいましたら、ぜひ応募することをおすすめします。チャレンジしたことは今後必ず役に立ちますし、きっと明るい未来が待っています。



### 【東京農工大学農学部 Sさん】

私は耕作放棄地の土壌改良、及び土壌保全型農業の普及に取り組みたいという夢があり、農学を志しました。しかし大学での学業とアルバイトとの両立に不安を抱えていました。そして、奨学金を頂くことになり、金銭面や時間面の余裕ができたことでより集中して大学の授業や、学生団体での活動、及び研究活動に取り組むことができました。そのような充実した学生生活があったからこそ、自分の農学に関する見識がとても広がったことを実感しています。奨学生の皆様、及びこれから奨学生に応募される皆様も、各々、素敵な夢をきっと持っていると思います。是非、自身の夢の実現のために、このようなご支援を頂きながら学業や社会貢献活動に専念し、悔いのない学生生活を送り、見識を深めて欲しいです。そして最後になりますが、サカタ財団様には約2年半、温かいご支援を頂き誠にありがとうございました。



### 【明治大学農学部 Iさん】

私は当財団の奨学生になったことで、日本の農業の今後に貢献したいとの想いがより一層強くなりました。それは日本食や、和牛やメロン、いちごに代表される農産物が世界で高い評価を受けており、そうした根幹にあるのは本財団が深く関わっている種苗や、農家の方々の絶え間ない努力だと実感したためです。

私は奨学金を活用し、語学学習に励み、大学4年時にはアメリカ・ニューヨークに留学をしました。アメリカにおいて日本食は、美しい配膳や少食を楽しむといった非日常を提供しており、アメリカに根付いたビッグサイズ文化とは一線を画した存在として高い評価を受けていました。私はその素材である我が国の農産物についても、世界でより多くの人に口にしてもらえよう、農産物の輸出促進に関する研究を大学院で続ける所存です。

当財団の奨学生、ならびに当財団へ応募される皆様は農業に興味・関心がある方ばかりだと存じます。末筆ながら、皆様が今後も何らかの形で農業に関わり、日本や世界の農業発展の一端を担うことを願っております。

